

都道府県番号	15
都道府県名	新潟県

【 √ 】

学校名及び規模

学校名	村松町立村松小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	1	19	26
児童数	76	78	86	87	82	93	2	504	

研究の概要

(1) 研究主題

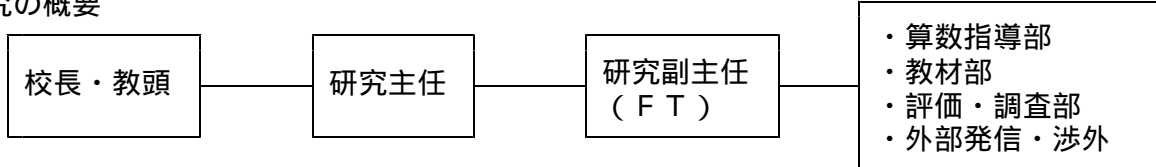
「自ら学び、基礎・基本を身に付ける子どもの育成」
～コース別指導を取り入れた算数授業の工夫～

(2) 研究主題設定の趣旨

学習の対象に深く関わり、問題を解決するために学習意欲をもって思考力等の能力を駆使し、学ぶ楽しさや成就感を味わいながら問題解決に取り組む姿を願っている。そのため、次のような授業を目指す。

- ・ 子どもの実態からコース別指導を指導計画に位置付け、それぞれのコースに応じた適切な教材や教具を用い、指導法を工夫しながら行う授業。
- ・ 一人一人の子どもが学ぶ楽しさや成就感を味わいながら基礎・基本を身に付けることができる授業。

研究の概要



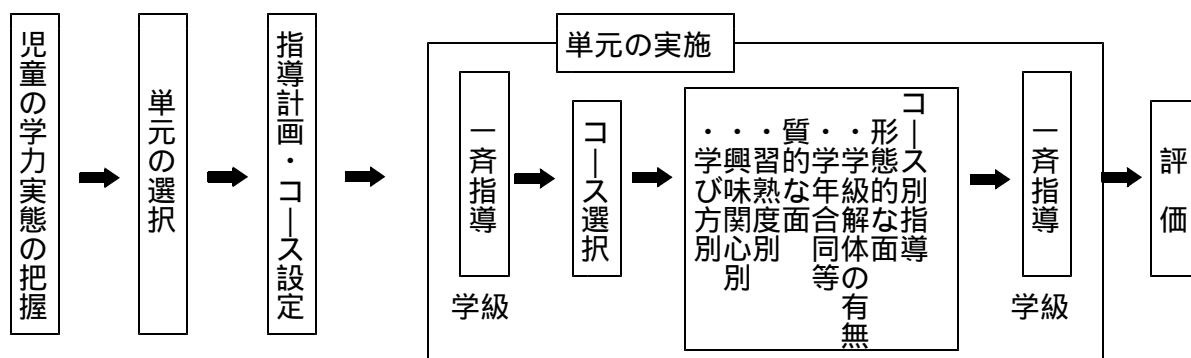
(1) 研究推進体制の工夫

- ア 各学年1名の研究推進委員会を組織する。また、全ての教員が4つの部に所属し、研究推進委員が各部のリーダーとなり、連携を図りながら研究を進めるようにしている。
- イ 定期的に研究の推進について評価し合う会を設定している。
- ウ 教材部では、授業者・授業学年以外の教員も入って教材を開発している。
- エ 教材部が中心となり、校舎の各階の廊下に「算数コーナー」を設置し、児童が数量などを実感できるようにしている。
- オ 使用した教材は、単元ごとにボックスファイルに保存し、活用しやすいようにしている。

(2) 研究の実際

- ア 下の図のような過程でコース別指導を実施している。
- イ コース別指導を実施した単元は、次のとおりである。
 - ・ 2学年 「長さ」, 「たし算とひき算」
 - ・ 3学年 「かけ算のひっ算」, 「わり算」, 「あまりのあるわり算」
 - ・ 4学年 「円と球」, 「2けたでわるわり算」
 - ・ 5学年 「垂直と平行」, 「図形の角」

- ・ 6 学年 「いろいろな体積」、「体積」、「分数のかけ算」、「比」



ウ コンピュータを活用した教材開発

4 年生「円と球」の単元では、コンパスの使い方や、円や球の学習に必要な基礎・基本を視覚的に繰り返し学習できるように、動画クリップ（DVDビデオ形式使用）を作成した。この教材は、児童も操作に慣れており、特に、円の概念形成に効果があった。

6 年生「比」の単元では、課題提示にパワーポイントを使用した。2 つの量の割合が視覚的に順序よく捉えられ、児童の課題把握に効果があった。

エ 発展的な教材開発

3 学年「あまりのあるわり算」では、発展的な内容を含むプリントを廊下に並べて置き、自主学習を奨励した。児童は違うコースのいろいろな問題に意欲的に取り組み、本単元における基礎・基本の定着もよく図られた。

(3) 研究の成果と課題

ア 基礎・基本の定着が図られた。

4 学年「円と球」の学習では、円の学習の後半と単元全体の後半部分の 2 回、コース別学習を設定した。ワークテストの結果は、学年平均が91点であり、全国期待値に85点に比べ6点上回った。コース別に見ると、コンパスコース（基礎・基本）が83点、円コース（基礎・基本）が89点、複雑模様コース（発展）が94点、発展コースが94点であり、円の理解が不十分な児童に対して、基礎・基本の定着がよく図られた。コンパスコースは、少人数での指導による個別指導の結果が出て、編成前後のチェックテストにおける作図問題（半径 2 cm、直径 6 cm の円をかく）の通過率は、半径 2 cm では60% 80%、半径 6 cm では10% 90%と向上した。

イ どのコースにおいても、既習事項を活用し、発展的に考えるように問題解決的な授業を構成し、基礎・基本となる操作技能や知識を身に付けることができた。

5 学年「図形の角」の学習では、三角形、四角形の学習後、五角形から多角形の内角の和を発展的に考える授業を構成した。コースの実態に応じ、課題と教材を工夫することで、どのコースも既習事項を生かし、基礎・基本を活用しながら、五角形、多角形などコースごとの課題の内角の和の求め方を考えた。基礎・基本コースでも復習だけに終わらず、学習した事項を振り返らせながら、三角形、四角形の内角の和を使えば未習の五角形の和も求めることができ、基礎・基本の大切さを実感し、身に付けていくことができた。発展コースは、公式化して一般化まで行うことができた。

ウ コースに違いがあっても、同じ学習をしているという認識をもたせることができた。

コース別学習後、学級に戻り、各コースでの学習の様子を紹介し合い、他のコースの学

習の様子を知るとともに、新たなアイデアに触れたりして多様な考えのよさに気付くことができた。このことにより、コースによる課題の違いがあっても、同じ学習をしているという共通認識をもたせることができた。

エ 児童の学習意欲を高めることができた。

算数に対する情意面のイメージ調査を、4学年「円と球」で指導前後に行ったところ、指導前の数値が高いにもかかわらず、指導後の数値はさらに伸びていた。発展コースの児童では、難しい問題に挑戦する意欲が顕著に見られた。

オ 児童・保護者のアンケートから、コース別授業の支持を得ることができた。

・児童の「勉強はよく分かりましたか」の問いに対して、「勉強がよく分かった」(65%)、「分かった」(34%)を合わせて99%という回答を得た。「少ない人数でよく分かった」、「自分にぴったりのコースだった」、「普段と違う意見が出て楽しかった」という肯定的な記述が多かった。

保護者からは、コース別授業に対しての肯定的な回答は99%であった。「個に応じた学習ができるので学力アップにつながる」、「不得意なところを重点的に学習してよい」、「子どもたちに優越感や劣等感がほとんど感じられない」、等の意見をいただいた。

カ 効果的なコース別指導を実施するための、指導前・中・後の教師の打ち合わせ時間確保が課題である。

(4) 研究成果の普及の方策

ア フロンティアスクールにおける研究概要について共通理解と研究の普及を図るために、下記の会を開催した。

- ・ 学力向上フロンティア事業町内協力校会議 (H.15.4.30)
- ・ 新津・五泉地域協議会 (H.15.6.27、H16.2.23)
- ・ 中間発表会 (H.15.11.21)

イ フロンティアスクールたよりやパンフレットなどをHPに掲載した。今後、各学年の実践をHPに掲載予定である。

(5) その他

村松町内の学校(小学校5校、中学校2校)で町教育振興会を組織し、小・中学校の教師が組んでTTを行ったり、授業交換を行ったりして授業改善に取り組んでいる。

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	✓	14年度からの継続校	
【学校規模】	6学級以下		7～12学級	
	13～18学級		✓	19～24学級
	25学級以上			
【指導体制】	✓ 少人数指導		T・Tによる指導	
	一部教科担任制		その他	
【研究教科】	国語	社会	✓ 算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		✓	有	無

コース別指導で成果を上げているポイントは、コース選択のための支援にある。児童に適切なコースを選択させるために、まず、既習内容のチェックテスト結果、自己評価(振り返りカード)を基に、何が分かったのか、何ができて何ができないのかを明らかにしている。